

私のひとりごと



「やまがた未来賞」を受賞して

尾花沢まつりばやし保存会
楽人 渡 会 邦 夫

この度、公益財団法人、日本教育公務員弘済会山形支部より「やまがた未来賞」という名誉ある賞をいただき嬉しく大変驚いています。11月下旬山形グランドホテルに楽人の太田指導員と出向き、緊張の中受賞しました。選考委員長の好評の中で、尾花沢の伝統的な祭り囃子を地区公民館の活動として、地域一体となって、未来ある子ども達に継承していく活動がすばらしいとの評価をいただきました。尾花沢祭り囃子の三曲は、

伝統の中に気品と優雅と躍動感をもち合わせている、すばらしい祭り囃子だと考えています。京都の流れを組んでいると思われ、三曲の中に笛・太鼓・三味線の各パートそれぞれの主旋律があり、構成もしっかりして音楽的にもすばらしいと思います。これまで継承してくださった諸先輩の方々、特に昭和の初めに、楽譜に残してくださった(故菅昂蔵さんに感謝しなければなりません。この楽譜があったからこそ、先人達の祭り囃子



が再現出来ていると思います。この受賞は保存会として進んでいく道を明るく照らしてくれたい気がします。

今後はこの祭り囃子を未来ある子ども達に継承すべく、地域の方々や保存会の指導者と共に取り組んで、いつか尾花沢祭り囃子が山形を代表する祭りになれる日を、夢に見て邁進していきたいと思えます。



あ と が き

本市は、国内有数の豪雪地帯で農業を基幹産業とする地方のまちです。12月定例会は、雪の尾花沢らしく、2日、初雪とともに開会された。今年の米価下落には、経営規模の大小に関わらず、大きな打撃を受けた。その結果が衆議員解散総

選挙結果に反映していると感じた。本会議で、改めて「米価下落に対する緊急対策措置を求める意見書」を全会一致で可決、提出された。新たな地方創生法が、真に本市のよつな地方のまちの光にならない。 (菅野 修一)

発行／山形県尾花沢市議会 編集／市議会だより編集委員会

議 会 日 誌

- 10月**
 - 1日 議会だより編集委員会
 - 6日 北村山広域行政事務組合議会
 - 7日 産業建設常任委員会
 - 8日 神奈川県愛川町行政視察(来市)
 - 10日 総務文教常任委員会
 - 11日 第14回まるだし尾花沢ふれあいまつり開会式
 - 14日 全員協議会
 - 17日 「みやぎ尾花沢会」通常総会・懇談会(仙台市)
 - 17日 産業建設常任委員会
 - 24日 環境衛生組合議会 定例会・懇親会
 - 25日 やまがた美しい森林づくり推進大会(天童市)
 - 26日 尾花沢市消防団 第一分団防災訓練
 - 30日 全員協議会
 - 北村山三市一町議会議員交流会(東根市)
- 11月**
 - 4日 全員協議会
 - 10日 臨時議会
 - 11日 議会運営委員会行政調査(栃木県宇都宮市、茨城県大洗町)〜12日
 - 13日 宮城県加美郡加美町 現地視察
 - 16日 尾花沢新庄道路 開通式・祝賀会
 - 19日 林活研修会(最上町・舟形マッシュルーム)
 - 21日 産業建設常任委員会
 - 25日 全員協議会・総務文教常任委員会
 - 28日 市民厚生常任委員会
- 12月**
 - 2日 12月定例会(〜9日)
 - 15日 環境衛生事業組合 臨時議会
 - 17日 全員協議会
 - 19日 北村山広域行政事務組合 臨時議会
 - 24日 北村山公立病院議会 定例会

市議会だより

謹賀新年

謹賀新年

84号

平成27年11月15日発行



12月定例会

- 補正予算・議案の審議…2
- 11月臨時会…3
- 可決された意見書…4
- 特集：議会改革…5
- 一般質問…6～9
- 先進地に学ぶ…10
- 広域議会報告…11
- 私のひとこと…12

尾花沢特産品 PRのために4年前から大活躍の「おはな特産隊ごっこお31」の登場で花笠高原スキー場は元気な歓声でいっぱい!

市のホームページから **市議会インターネット中継・録画も見てください!**

補正総額3億6,800万円を可決

12月定例会は、12月2日から9日までの8日間の会期で開かれました。平成26年度一般会計など補正予算4件、条例の制定など8件、人事案件2件を慎重審議した結果、いずれも原案の通り可決しました。また、請願3件を採択、1件を不採択とし、意見書の提出は、議案案2件を可決して閉会しました。

補正予算の審議

Q ふるさと応援基金を活用してAEDを購入配置するとしているが、これまでの設置台数と、この度の配備計画はどのようになっているか。

A これまでAEDは22ヶ所の公共施設に配備してきたが、今回15台を購入し、地区公民館や保育施設などに配置する予定であり、市



地域での健康づくりが大事

内全公共施設に配備完了となる。使い方の周知を図るため消防署と連携を図り、使用講習会を開いていきたい。

特別会計の補正

Q 国民健康保険特別会計の補正は基金積立金4千403万円となっている。年度当初は28万円の基金残高とのこと。条例上の基金はいくらとされているか。今年度末の基金の見通しはどうか。また、国保会計は農業、自営業や派遣労働者などが被保険者となっているため、財政は厳しい状況にある。法定外の繰入金も必要ではないか。

A 国保会計の条例上の基金は、1億9千万円ほど保有すべきとされている。年度末の基金の見通しは870万円ほどと見込まれるが、これまで社会保険のみもあり、法定内繰入だけでやってきている。厳しい基金残高のなかで、しっかりと内部精査を行い判断していきたい。

Q 中央診療所は待ち時間が非常に長いと聞く。内科医師の確保についてはどのようにしているか。また、県立新庄病院からの内科医師派遣日の診療日数を増やしてもらいたい。

A 市内2つの医療機関の廃業や休業の事態で大変支障をきたして

いる。内科医師の確保に日医大へお願いを再三行っているが、具体的には先が見えていない。今後とも確保に努めたい。内科医師派遣の日数を増やすことについては、引き続き県と協議を続けていきたい。

請願の審査

採択された請願

◎平成26年請願第6号
日本を「海外で戦争する国」へとつくり変える集団的自衛権の行使容認の閣議決定の撤回を求め、立法化に反対する意見書提出についての請願
尾花沢九条の会
代表 梅津 保一

◎平成26年請願第10号
尾花沢地区の流雪溝整備に関する請願
田沢区長 菅原 一美
和合区長 菅野 誠治

不採択となった請願

◎平成26年請願第8号
集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更を行わないことを国に求める意見書の提出に関する請願
山形県平和運動推進労働組合センター
議長 岡田 新一

人事案件

任期満了に伴い、後任の委員の任命及び推薦に全会一致で同意した。
◎尾花沢市教育委員会委員 森山 千洋氏
◎尾花沢市人権擁護委員 笹原慶一郎氏

◎平成26年請願第11号
市道大柳寺内上線の流雪溝設備に関する請願
寺内第1区長 三浦 澄夫
寺内第2区長 渡辺 敏良
寺内第3区長 渡辺 修悦

11月臨時会

議案の審議

債務負担行為補正

◎花笠高原施設指定管理料 1億494万円

◎徳良湖周辺施設指定管理料 1億1千880万円

※いずれも27年度から30年度までの4年間

Q 指定管理料が1年で花笠高原施設は100万円、徳良湖周辺施設は350万円増えているのはなぜか。

A 花笠高原施設の管理料が91万8千円増えたのは、小規模な修繕を指定管理者の方で迅速に対応できるようにしたことである。また、徳良湖周辺施設は、小規模修繕費68万円、花笠ふれあいセンターの管理人常駐を7ヶ月に



花笠高原スキー場ゲストハウス

増やしたことで88万円、光熱費関係の精査で51万円などのほか、基幹集落センターの管理日数の増加を見込んで106万円とし、合わせて348万5千円の増で計上したものである。

Q 花笠高原施設と徳良湖周辺施設の指定管理は公募方式にされたが、周知方法と範囲について伺いたい。

A 公募は市のホームページに募集要項など

を提示したり、市報への掲示を考えている。また、募集範囲は北村山管内に主たる事業所のある企業としている。

Q 指定管理の公募の日程と、応募された企業の審査をどのようにするのかを伺いたい。

A 公募と審査のスケジュールは11月12日に募集要項の広報を行い、現場説明会などを実施後、12月初旬から申請書の受付を行う。その後公募者からプレゼンテーションをいただき、選定委員会を開催し、12月下旬に指定管理者の決定をしたい。

また選定委員会の構成は、民間の方3名ほどを含めた体制で開催する。審査対象団体の代表や役員などは審査に関与できない規定となっている。

生活保護費補助金

Q 就労自立給付金等システム改修事業費補助金は、どのように変わるのか。

A 生活保護を脱却する上で、いろいろな資金が必要とのこと、国は26年7月1日に制度改正を行った。1人世帯では就労した際の資金の3割3ヶ月分まで上限10万円、人数の多い世帯では15万円を限度に支給を実施するものである。



平成26年12月定例会賛否状況 (賛否の分かれた議案のみ掲載、他は全会一致)

議案番号	案件名	表決の結果	議員															
			小関 英子	星川 睦子	塩原未知子	石塚ミツ子	青野 隆一	奥山 格	五十嵐佳満	菅野 修一	武田 佳久	大類 好彦	須貝 孝	伊藤 精一	鈴木 敏正	加藤 克彦	菅根 光雄	大類 準一
議第64号	平成26年度尾花沢市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度請願第6号 (平成26年9月定例会継続審査)	日本を「海外で戦争する国」へとつくり変える集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求め、立法化に反対する意見書提出についての請願	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度請願第8号 (平成26年9月定例会継続審査)	集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更を行わないことを国に求める意見書の提出に関する請願	不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
議案案第9号	日本を「海外で戦争する国」へとつくり変える集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求め、立法化に反対する意見書提出についての請願	可決	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

議会改革

この4年間、市民の皆さんにとって、どうすれば分かりやすく、開かれた市議会にできるのかという「議会改革」や「議会の活性化」について、全議員が積極的に議論を重ねてきました。

その結果、任期中の議員報酬削減（月額1万円）、議会のインターネット中継、議員自ら作成し、市民に親しまれる「議会だより」の発行などを実施しました。

また、議員定数と報酬問題についても、全員協議会や会派代表者会など30回の協議を行いました。大きく分けると、次のような3つの意見が出されました。

- ①県内でも最低位の報酬は減額するのではなく、人口減少に伴い定数を削減すべきだ。
- ②常任委員会の構成など議会運営上、これ以上の定数削減は問題がある。議員報酬を削減すべきである。
- ③定数も報酬も現状維持でよい。

一方で、議員年金制度の廃止などもあり、立候補者の減少が深刻化しています。このために、新たに議員に挑戦しやすい環境づくりも議会の活性化にとって必要との意見も多く出され、13市中唯一実施していない「選挙費用の公費負担」について市長の考えを求めました。これに対し「現在では、新鶴子ダムの償還があり、実施は困難である。」との考えが示されました。

こうした結果を受けて議長は、「選挙を7月に控え、これ以上先送りはできない。議会として一本化することは困難である。」ということに集約しました。

現在の議会改革は、経費節減型で進んでいます。このことも当然ではありますが、議会機能の弱体化を招かないことも含めて、これからも真剣に考えていかなければならない大きな課題です。



市議会議員選挙公費負担額（1人当たり限度額）

	①選挙自動車	②ポスター
尾花沢市	0円	0円
他市の例	451,500円	379,392円
積算基礎	64,500円×7日	2,496円×152箇所

尾花沢市の議員定数の推移

議員任期	議員定数	人口	議員1人当たり人口
昭和34年7月～	30	31,538	1,051
平成11年7月～	22	22,681	1,031
平成15年7月～	20	21,752	1,088
平成19年7月～	16	20,632	1,290
平成23年7月～	16	18,787	1,174

近隣市の議員報酬・政務活動費比較表

平成24年10月1日

市町村名	人口	議員定数	人口1,000人当たり議員数	議長	副議長	議員	政務活動費(月額)
東根市	47,021	18	0.383	435,000	385,000	360,000	12,500
新庄市	37,989	18	0.474	448,000	395,000	370,000	15,000
村山市	25,987	17	0.654	435,000	385,000	360,000	10,000
尾花沢市	18,178	16	0.880	405,000	363,000	340,000	5,000

◆指定廃棄物最終処分場候補地選定に関する意見書◆

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴って発生した指定廃棄物最終処分場建設問題については、宮城県内で栗原市、大和町、加美町の3ヶ所の国有地が詳細調査候補地として選定されました。しかしながら、候補地となった3ヶ所はいずれも水源地であり、その下流域では飲料水や農業用水として広く活用されていることから、候補地として不適切であると強く反発しています。これらの候補地のうち加美町は国道347号を介して当市と隣接しており、候補地の箕ノ輪山田代岳からは直線にして銀山温泉まで約13km、山刀伐峠まで約10km、市街地まで約20kmと、極めて近距離にあります。

加美町が最終処分場となれば、尾花沢市が日本一と自負する「夏すいか」や東北有数の飼養頭数を誇る「雪降り和牛」、さらには水稻をはじめとする農産物に対する安全性が大きく損なわれるのではないかと危惧されます。

以上のことから、加美町箕ノ輪山田代岳を指定廃棄物最終処分場の最終候補地とすることを反対するものであります。



平成26年11月13日 箕ノ輪山田代岳現地視察

可決された意見書

◆米価下落に対する緊急対策措置を求める意見書◆

平成26年産米の概算金は、はえぬき1等60kgあたりで8,500円の超低水準で設定され、昨年と比べて2,500円の大幅な下落となっています。このままでは、農業を基幹産業とする尾花沢市にとって極めて深刻な影響が危惧されます。

今後、さらに稲作農家が来年以降も意欲をもち、継続的に作付けができるように、早急に対策が講じられるよう下記の事項について強く求めるものであります。

記

- 1 米の価格は、市場原理に委ねられる中、年々価格が下落し農業経営は成り立たなくなっているため、国による米の価格補填、米の需給安定対策を実施すること。
- 2 農業経営に展望を持ち、後継者育成ができるよう、再生産可能な米価の安定を図るための施策を実施すること。
- 3 主要用米の消費拡大のため、国民的運動を効果的に実施すること。

◆日本を「海外で戦争をする国」へとつくり変える集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求め立法化に反対する意見書◆

閣議決定は、日本への武力攻撃ではなく「わが国と密接な関係にある他国」への武力攻撃でも、武力行使を可能にしました。「明白な危険がある場合」の「限定的」なものとしても、その判断は時の政府にまかせられます。さらに、これまで非戦闘地域に限定してきた自衛隊の「後方支援」を戦闘地域に拡大し、武器使用についても制限を撤廃しました。「武力行使をしてはならない」「戦闘地域に行ってはならない」というこれまでの二つの歯止めをはずせば、武装した自衛隊が戦地で攻撃対象となり、戦闘行為に巻き込まれることも明らかです。以上の趣旨から次の事項について、意見書を提出いたします。

【項目】

集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回し、立法化しないこと。

元気な尾花沢はひとりひとりの健康づくりから



塩原末知子議員

Q 年々増加する高齢者の国民健康保険料抑制のためにも、温泉を活用した心と体の健康づくり事業をしてはどうか。

A 元気は市民ひとりひとりの健康が大事、平成27年度に予定されている県の事業に合わせ、市内の産直店の特産品などの「食」やスポーツなどの「運動」も合わせて、尾花沢市民全体の心と体の体力づくり事業を推進していきたい。

Q 客足が震災前にもどつつある銀山温泉の流れを、市内全体に波及させる必要があると考える。特に冬の観光をどうするか。

A トイレや駐車場の要望もあるが、徳良湖や商店街、市内周遊させる工夫を今後していく。大崎市や加美町と国道37の絆交流の広域マップを作成予定であり、周遊をうながす標識や看板などの他、商店街の個店を宣伝するパンフレットを作成したので、市内だけでなく広域に配布できるように準備していく。

Q 老朽化した空き公施設や未利用地の積極的活用こそ市の財産になる。1年間休館になっっている高齢者コミュニティセンター銀嶺荘は今後どうするか。また徳良湖の基

幹集落センター付近の未利用地はどう活用していくのか。使われていない期間を出来るだけ短縮してすべきではないか。

A 銀嶺荘は給湯の関係で今後の再開に見通しがたたない。地域と相談して、廃止していく方向で検討している。徳良湖の未利用地に関しては、周辺全体のブランドデザインも必要であることから維持管理も含め検討していく。



おいしい山形空港 冬のキャンペーンHP

「健康長寿」尾花沢市構築のために



小関 英子議員

Q 「健康長寿」の尾花沢市構築のために、取り組んでいる事業を見える形にし、付加価値を付けてもつと尾花沢を好きになってもらう「健康マイレージ」の導入を考えてはどうか。

A 県では、平成27年度新規事業で「仮称」やまがた健康マイレージ」を実施する予定であり、県内では、既に3市町で独自に実施している。今後の取り組みについては、実施市町の状況や県の動向も踏まえながら検討していきたい。

Q 胃がんは日本人が最も多く12万人が発症し、約5万人が亡くなる。

なっていると推定されている。胃がんの98%は、ピロリ菌が原因とされ、早期発見し除菌をすれば発症のリスク軽減ができる。ピロリ菌検査を実施する考えはあるか。

A ピロリ菌検査については賛否両論ある。日本消化器がん検診学会では、「死亡率低減効果等有効性のエビデンスが得られておらず、対策型検診としては推奨されていないため、この検診を計画的な比較試験などの適正な評価を経ることなく拡大することは大きな問題である。」としていることから、関係機関の動向を注視し検討すべきと考えている。

Q 防災・減災のまちづくりのために、自主防災会への支援と、冬季間降雪時の防災訓練の予定はあるか。



健康長寿体操

A 自主防災組織の機能強化として、今年度より創設した防災士資格取得に要する費用の助成を2つの自主防災会で活用され、2名の方が防災士の資格を取得した。こうした補助制度について、今後さらに活用されるよう啓発に努めたい。冬季間の防災訓練の実施については、今後検討していきたい。

旧狹袋小を「雪とスイカと花笠の館」にできないか



青野 隆一議員

Q アベノミクス政策は本市経済にどのような恩恵があったのか。

A 市税収入などに大きな恩恵をもたらす状況には至らず、一般財源の増加も難しいため、大変厳しい財政運営が見込まれる。

Q 羽州街道猿羽根峠の現状と今後の整備促進についてどう考えているのか。

A 福原ふるさと歴史保存会が実施したウォーキングツアーの参加者から、羽州街道の荒廃ぶりを伺っている。本市には「歴史の道」といわれる遺構が多く、全体の検証作業を行い、今後の整備方

法を検討する。

Q 旧狹袋小体育館を雪室にして、米、スイカ、そばなどの食材保管供給施設とする。校舎は、①花笠踊りに関する資料展示や映像、実演の披露②スイカに関する研究や商品開発③雪冷房などの克雪や親雪情報を全国へ発信する「雪とスイカと花笠の館」として活用してはどうか。

A 旧狹袋小は、地方創生に関連する活用や産業活性化の視点から幅広く検討する。「雪とスイカと花笠の館」構想は、大変貴重な提言として参考にしたい。

Q 米価下落などによる本市の農家収入は前年対比でどのくらい減少するのか。

A 米価下落で2億1千万円、米の直接支払交付金半減で1億7千

万円、スイカで2億円と本市における減少額は、5億8千万円と推計している。

Q 宮城県加美町の「指定廃棄物最終処分場」に対し、市議会では、建設反対の意見書を提出するが、市としてどのような対応を考えているのか。

A 本市の農畜産物や観光誘客面での風評被害が懸念される。隣接自治体や山形県と連携し、危機意識を持つて対応する。



羽州街道

市報折込みチラシの削減を



大類 好彦議員

Q 市報にチラシ等の配布物が多いことから、区長や隣組長の負担が大きくなり、配布物を減らし、市報に掲載すべきではないか。

A お知らせ版の活用を最優先とするとともに、回覧板活用の拡大やチラシの両面活用などを徹底し、関係課連携のもと、区長や隣組長の負担軽減に向けて対処していきたい。

Q 平成27年度の介護保険制度改正に伴い介護予防給付として行っている「通所介護サービス」と「訪問介護サ

ビス」の2種類の給付が地域支援事業(新しい総合事業)に移行し、介護保険特別会計のなかで尾花沢市が事業を実施することとなるがどう対処していく考えか。また、家事援助などはシルバー人材センターを活用してはどうか。

A 利用者へのサービス低下をきたさぬよう努めていく。

要支援1、2の方への家事援助などのサービス提供として、シルバー人材センターを活用することについては、今後、シルバー人材センターとの協議を行い、地域の実情の把握に努め、効果的・効率的な事業実施につなげていきたい。

Q 他の自治体では「敬老商品券」を発行し、地元商店街の活性化を図る取り組みも見られる。各地区の敬老会の際に「敬老商品券」を贈呈してはどうか。

A 祝い品の購入にあたっては、地域経済の活性化の観点から、地元からの調達に留意している。今後とも喜ばれるものを検討していきたいと考えている。



多すぎるチラシ(12月15日号)

今後の保育園の整備はどうか



大類 準一議員

Q 老朽化している保育園の建設計画はどのように考えているか。

A 将来的な人口推移や保育所入所児童数を検証し、平成22年10月に策定された「保育園民営化ガイドライン」に基づき民営化、統廃合など、民間保育所運営も勘案しながら検討する。

Q 少子化に伴い、今後の保育事業はどのように見直しするのか。

A 少子化により変化する現状を見極めながら、家庭・地域と一体となった保育、多様な保育ニーズに対応した質の高い保育の提供に努めていきたい。

Q 国道347号の整備に伴い、産業振興と交流事業の拠点となる施設や機構を整備する考えはないか。

A 本市の観光の中心である銀山温泉や徳良湖、花笠高原などの市内周遊から産業に結びつけることが重要と捉えている。拠点施設については、平成28年の通年通行による交通量の動向を踏まえ、関係機関と検討したい。

Q 徳良湖周辺の新たな土地購入について、どのように活用を行っていくのか。

A 平成12年度に徳良湖周辺環境整備基本計画を策定してから10数年経過しており、関係課と協議する必要がある。「市民ガーデン」として散策できるよう整備するのが、経費や景観保全の面からも良い

方法と考えている。
Q 海外からの観光客に対応した観光案内板の表示等を整備してはどうか。

A 銀山温泉では、平成21年度に山形県の補助事業を活用し、外国人用案内看板を作成し、英語、韓国語、中国語に対応した。その他の観光施設については、外国人の利用状況等を考慮しながら、関係機関と協議して検討する。



玉野保育園



菅野 修一議員

Q 26年産米価概算金がいまだかつてない下落設定された。それに米の直接支払交付金の半減や変動補填金が廃止された年であり、さらに円安による生産資材及び燃油などの値上がり及び稲作農家への追い打ちをかけている。これらにどう対応し、農業と農業者を守り、展望を拓いていくのか。また、市として追加払いを村山市、大石田町と共同歩調をとり、J Aみちのく村山へ要請してはどうか。

A 国では農地の集約化などによる米の生産コスト4割削減を掲げているが、資材費の高騰により増加になるとの懸念がある。国の施策によって農業が衰退しないよう、国、県に対し、支援策を求めていきたい。追加払いの要請については、販売戦略などで出荷農家にプラスになるように進めてもらいたいと考えている。



J Aみちのく村山のすいか選果機

へ要望しているが、見直しはどうか。
A 「すいか選果施設の更新」を平成27年度の本市重要事業と位置付け、先進技術の導入や海外輸出などを視野に入れて、「強い農業づくり交付金」事業の採択に向け取り組んでいる。

Q 11月の子牛1頭平均価格が60万円に迫る過去最高値をつけている。天井知らずの子牛価格の高騰は肥養生産者の経営を圧迫している。子牛生産を増やしていく対策はどのようなものか。

A 牛価格高騰に対応するため、和牛繁殖雌牛導入事業等を活用し、平成25年度には、繁殖牛34頭を増頭しており、平成26年度には37頭の増頭を予定している。

本市農業の振興について

放射能指定廃棄物処分場建設阻止を



石塚ミツ子議員

Q 福祉や社会保障の充実を図る目的で消費税を8%にした。地方消費税交付金はどうか配分され、地方交付税にはどうか反映されるのか。

A 本市への地方消費税交付金の配分が反映されるにはタイムラグがあり、今年度当初福祉関連予算は、前年度対比2千万円(9・4%)増とした。また、交付税特別会計への繰り出す割合が、29・5%から22・3%に下がったため、地方交付税の伸びは期待できないと考えている。

Q 燃料費の高騰が続く、本格的な冬が到来することから、昨年に引き続き福祉灯油券を発

行する考えはないか。

A 5年前の灯油価格と比較して1・6倍で、高齢者等の低所得世帯には厳しい状況と理解している。今後とも、灯油価格の推移と気象状況を勘案しながら、昨年同様、早めの対応を検討する。

Q 来年度の国保財政や第6期介護保険事業計画保険料の見直しについて伺う。

A 国保税の税率については、今後の基金残高や医療費動向にも注視しながら検討する。



12月13日 加美町の現場視察

また、介護保険料については、第5期の4千76円よりも上がるものと見込んでいる。

Q 本市と隣接する加美町田代岳山頂に指定廃棄物最終処分場建設の計画がある。地すべり地帯で強いやませの吹く場所が、8千ベクレル以上の高濃度放射能を含むゴミの焼却炉建設埋立地となる。特に農産物等への実害や健康被害など大きな不安を与えるため、市民に周知し、国、県に対して意見を申すべきではないか。

A 宮城県内では降雪期を迎えるため、年内調査を見送るとのことだが、近隣する自治体や山形県とも連携し、情報の共有化を図り、危機意識を持って対応していく。

報告

議会改革行政調査

栃木県矢板市議会

議員定数削減と常任委員会の再編取り組むについて

矢板市議会は、平成19年に議会定数を22人から16人に削減した。そして、三つの常任委員会(総務、文教厚生、経済建設)を二つの常任委員会(総務文教、厚生経済建設)に再編した。

この議会改革を行うため、平成17年に全議員で構成する議会改革特別委員会を設置した。検討課題を①定数問題②報酬問題③政務調査費問題と定め、計7回の議会改革特別委員会を開催し、3件の全てに結論を出されている。定数問題については、4回の特別委員会を開く中で集中審議さ

れ、約1ヶ月後、議員定数16人に削減と、3常任委員会を2常任委員会への改編を決定したとのことである。しかしながら、常任委員会の所管配分が難しく、現在も模索している状況であるとのことである。

茨城県大洗町議会

常任委員会の複数所属性と議会改革について

大洗町議会は、平成23年に議員定数を15人から13人へ削減している。

平成19年の議員改選を契機として、「開かれた議会・信頼される議会をつくる」議会改革に取り組んだ。議会改革等特別委員会を設置せずに、全て議員全員協議会の協議で決定

委員長 菅野 修一

したとのことである。議員定数15人の時は3常任委員会の構成はそれぞれ5名としたが平成23年、さらに議員定数を13名に削減したことにより、1議員が2つの常任委員に所属する複数所属制の条例を制定し、現在にいたっている。現在総務常任委員会が8名、文教厚生常任委員会が9名、建設経済常任委員会が9名で素晴らしい運営に感じているところである。



総務文教常任委員会

委員長 大類 好彦

北海道新得町 〔定住住宅建設促進事業について〕

住宅ニーズが多様化しているため、民間活力を導入したのが成功の秘訣。町営住宅を建設しても維持管理費は必要。町営住宅を縮小して維持経費を圧縮し、その分を助成金に利用。個人13名、法人10社の事業実績があり、入居率はほぼ100%。空きが出てもすぐ入居する人がいる。尾花沢市も空きアパート・空き家が増えており、活用を考える必要がある。

〔持家等住宅建設促進事業について〕

住宅を建築した場合、祝い金を交付。町内業者施行50万円。町外業者施行30万円。町内限定の商品券を交付。平成19年から25年まで101戸の実績。定住対策に



効果がでており、人口維持の要因になっている。建設業者・商店街にも良い事業である。〔地域おこし協力隊について〕
新得町では、協力隊員を12名も委嘱しており、農業・林業・福祉などの業務を行い、農業・林業・介護の仕事も習得し、定住できるベイスを築いている。尾花沢市のようにイベントの補助員のようなやり方は定住に繋がりにくく、見直しが必要である。

市民厚生常任委員会

委員長 青野 隆一

〔三条市〕

生きがい・就労の場の創出の視点から、「健康マイレージ事業」を実施している。市主催のイベントや生涯学習講座、ボランティア活動などへの参加者にポイントを付与し、ポイント数に応じて地元商品を購入できる内容である。この制度は全庁的な連携が図られており、市民全体を巻き込んだ多様な仕組みづくりを可能としている。

〔章津町〕

二次予防事業として、65才以上の全町民に対して「にっこり健診問診票」を配布回収し、通所型や訪問型介護予防事業を行っている。一次予防事業としては、町内各地区に出向く高齢者招待食事会、スマイルボーリング大会、高齢者サロンなどの取り組みを行っている。

〔山之内町〕

平成21年度に「地域新エネルギービジョン」を策定し、雪氷熱の活用では、駐車場に500tの雪山を作り、6月から8月のイベントに活用している。雪冷熱利用農産物等貯蔵施設では、玄そば、地元野菜、牛肉、りんごなどを貯蔵し、付加価値をつけた販売を行っている。

〔上越市〕

「ゆきのまち未来館」の伊藤親臣さんは、「雪は、冷房・冷蔵の他に人と人をつなげる役割も持っている。地域の負担をエンジンに変え、雪室でさまざまなものをブラッシュアップして経済活動に結びつけていきたい。」と熱く語った。特に安塚中学校の雪冷房施設は、本市の庁舎改築にも大いに参考になった。

産業建設常任委員会

委員長 五十嵐 佳満

〔南幌町〕「稲わらペレット」利用の取り組みについて

○稲わら燃料として成り立させるため、町内で熱需要の多い施設、農業用ハウス、役場庁舎、南幌温泉について、需要量の具体的な検討を行った。

その結果、年間通じて需要がある南幌温泉へのボイラーの導入が最適であると判断に至る。

○南幌温泉稲わらペレットの取り組み
稲わらは、機械によりロール状態で収集する。収穫状況に、原料の8割程度がペレットとして製品化できる。

〔栗山町〕「移住・定住」対策事業

町、農協、改良区が一体となり、平成16年に役場内に設立した、

- ① 農業振興公社は、まちの農業の構造改善と担い手づくりを主とする。
 - ② 農地流動化の円滑な推進と促進
 - ③ 農地利用集積円滑化事業
 - ④ 地域を担う人材育成と新規就農
 - ⑤ 営農に関する情報の提供と農業生産法人の育成など
- 〔帯広市〕「新規就農者受け入れ事業」
- ① 住居の確保 町の旧教員宅を改善し活用
 - ② 通年研修の試み
 - ③ 農業生産法人への研修
- 夏は北海道、冬には鹿児島で通年研修等
③ 青年就農給付金の活用

北村山広域行政組合議会

12月19日村山市議会議場で臨時会を開き、平成26年度年度一般会計補正予算を原案通り可決した。補正予算の主なものは人事異動や入院勧告に準じた一般職員の給料改定に伴う人件費の補正、視聴覚センターのホームページや管理システム用サーバーの故障による借りに



げ料など、合計64万円を追加し総額を1億563万円とした。任期満了にもなう教育委員人事で東根市教育長の高橋一郎氏を再任し閉会した。

北村山公立病院議会

定例会が12月24日に開催され、平成26年度事業会計補正予算、組合を構成する3市1町の負担金補正、同病院一般職の給与条例の一部改正の3議案を原案通り可決した。

事業会計補正予算は、上半期(4~9月)の状況も踏まえ、年間入院患者数を当初比2千818人減の9万2千82人、外来患者数を6千829人減の10万6千631人と見込んだ。これに伴って、事業収益は1億438万円減の52億2千

713万円、事業費用は6千844万円減の57億1千204万円に補正し、4億8千490万円の赤字見込みとなった。
なぜ患者数が減少するのかという質問に対し、外科医の減員、開業医の増加、人口減少などが主な原因であり、今後医師の確保に努めていきたいとの答弁があった。
また、各市町の負担総額は、院内保育所の利用者数増などにより150万円減の5億6千734万円となった。

広域組合議会の報告

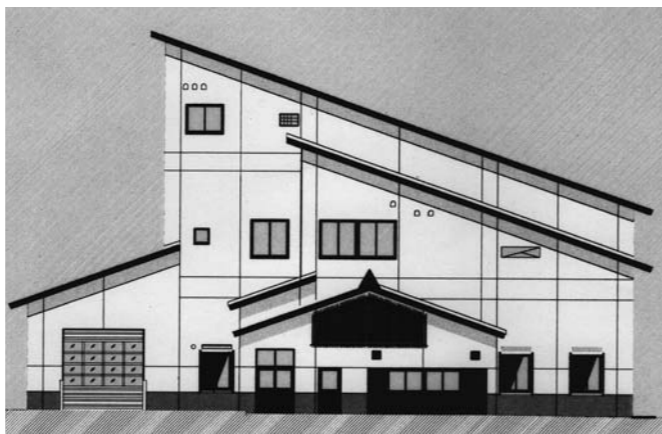
尾花沢市大石田町環境衛生事業組合議会

新しい施設は、高度な水処理で行うなど、環境面に配慮したシステムを採用します。

■汚泥再生処理センター建設工事概要

- ◎工期 平成26年5月8日～平成28年11月25日
- ◎処理能力 35KL/日 (内 し尿4KL/日・浄化槽汚泥25KL/日農集排汚泥6KL/日)
- ◎処理方式 水処理：浄化槽対応型脱窒素処理方式
資源化：助燃剤化(含水率70%以下)
- ◎工事費 1,198,800千円
- ◎交付金 環境省 循環型社会形成推進交付金
- ◎施工管理 株式会社エイト日本技術開発東北支社
- ◎本体施工 水ing株式会社東北支社

※外壁等の色は、詳細協議により決定致します。



■建設場所 尾花沢市大字毒沢地内

